

# 日産科学振興財団 理科 / 環境教育助成 成果報告書

回次：第 3 回 助成期間：平成 18 年 11 月 1 日～平成 19 年 10 月 31 日

テーマ：生活科 理科 総合的な学習の時間を活用した環境教育の推進

氏名：小林 徳博 所属：神奈川県

## 1. 課題の主旨

本校は、昨年度に引き続き 2 年目の研究である。昨年度は、『「もったいない」と思う心を育てる環境教育の推進』をテーマに、校内や地域の自然を活用し「知る活動」「親しむ活動」「護る活動」を通して「環境にやさしい生活」ができる児童を育てることを主眼に研究を進めた。

研究を通して見えてきたことは、児童に自然の不思議さや多様性を十分に味わせ、環境に対して敏感な感性を育てること。また、自分たちにできることはないかを考え、自分たちでできること一つでも実行に移す実践力を身に付けることなどであった。

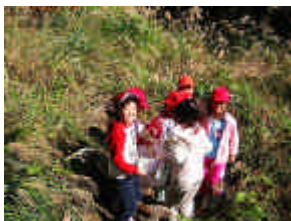
今年度は、それらの課題を解決するために生活科・理科・総合的な学習の時間を通して、子ども達が自ら自然環境や生活環境に働きかけ、問題を追及し、より良い環境の創造や保全のために主体的に活動しようとする態度や実践力を育てることを研究の柱とした。

## 2. 指導方法

- ・低学年においては、生活科を中心に地域の自然と親しむ活動を通して環境に対する感性を育てる場を構成する。
- ・中・高学年においては、総合的な学習の時間「本町学習ワールド」を通して生活環境を見直すとともに、生活を豊かにする活動を構成する。
- ・児童会や P T A ・地域の活動に積極的に参加する場を構成し、環境に対して働きかける実践力を培う。

## 3. 実践内容

### 【生活科】地域の自然と親しむ活動を通して環境に対する感性を育てる活動例



1 年『あきを楽しく』  
秋の自然を体一杯感じる子どもたち（四季を通じ実践）



2 年『生き物と友だちになろう』  
学区にある葛葉溪谷で生き物と遊ぶ



2 年『さつまいもパーティー』  
学校農園で育てたサツマイモを使っていろいろなお菓子を作る

**【教科・領域】：総合的な学習の時間「本町学習ワールド」を通して生活環境を見直す活動例**



3年『水生生物クイズ』  
地域の河川に住む魚類を調べた結果をゲーム化



4年『牛乳パックの再生』  
牛乳パックから紙の再生を通してリサイクルの大切さを学ぶ



4年『リサイクルワールド』  
ペットボトルなどをリユースしてゲームで楽しむ子ども



6年『ペットボトルの船』  
ペットボトル200個で作った船をプールに浮かべる



6年『牛乳パックドミノ』  
牛乳パックのドミノを体育館一杯に並べてスタート



5年『地球温暖化とリサイクル』  
NPO気象キャスター・シャープの方々による特別授業の実施

**【児童会・PTA活動】児童会やPTA・地域との連携による活動例**



『水生生物委員会』の活動』  
EM菌を活用した本町の池のクリーン作戦



『月2回のリサイクルデー』  
全校の児童が家庭からアルミ缶や牛乳パックを持参



『児童朝会「愛鳥委員会」の発表』  
今年度「秦野市愛鳥モデル校」となり、愛鳥活動をスタート



『ひろえば街が好きになる運動』  
市内最大の「たばこ祭」にエコ委員会の児童が参加し、市民に清掃活動呼びかけた



『河川景観保全の緑化運動』  
4年生が市と協力し秦野市の名産落花生を河川敷で栽培し収穫をした



『どんぐりを植えよう』  
3年生が平成22年に開催される「全国植樹祭」に向けてどんぐりを栽培

#### 4. 成果・効果

- ・低学年においては、生活科を通して学校内の自然や地域の自然に積極的に係わらせることによって、自然の不思議さ多様さを感じ取り、環境に対して豊かな感性を育てることができた。
- ・今年度の特徴は、『ひろえば街が好きになる運動』『河川景観保全の緑化運動』『どんぐりを植えよう』『青少年育成団体による清掃活動』など、地域や関係諸機関と連携した活動により、児童が地域に積極的に出て、自分たちのできることを進んで行動できたことである。このような場を多く提供することによって、児童の環境問題への関心意欲を高めることができた。
- ・「本町学習ワールド」は、昨年度まで行っていた「本町フェスティバル」のお祭りの面を改め、総合的な学習の時間の発表会形式に変更した。各学級は、1学期からこつこつと学習を積み上げていった。特に、環境教育を取り上げた学級では、牛乳パックやペットボトルが楽しい遊び道具に変身したり、全く別のものに再生することができることなどを知った。また、それらは、私たちの生活を豊かにしてくれることも学ぶことができた。
- ・「NPO気象キャスターネットワーク」と「シャープ」の環境社会貢献活動としての「地球温暖化とリサイクル」の授業を5年生が受けた。リサイクルの大切さや鉄やプラスチックを簡単に分別回収する実験を見せていただいた。また、身近な天気の話から地球温暖化の問題にふれ、温暖化について実験を通して分かりやすく紹介していただき、地球規模の環境問題を考えることができた。

#### 5. 今後の課題や発展性について

「一人歩きができる環境教育」を推進するには、児童の日常生活を見直し、「自分たちにできることは何か」を考え、行動への第一歩を踏み出させることである。そのためには、学校・家庭・地域が協力して、活動の場を設け、共に活動することによって児童の関心意欲を高めていくことである。